

## 家庭数

保護者各位

平成 28 年 10 月 17 日

世田谷区立尾山台小学校  
校 長 渡部 理枝  
P T A 会 長 山根 健太  
文化厚生委員長 石川八恵子

### ～ 文化厚生通信 ～ 《今年度テーマ：育もう！すこやかな心と身体》

#### 第二回 家庭教育学級ご報告

9 月 29 日に第二回家庭教育学級として「今日から始める防犯防災対策～子どもを守るために今日からできること～」と題し、防犯減災アドバイザーの菊池顕太郎さんに講演していただきました。世田谷区教育委員会社会教育指導員の杉本一郎先生はじめ、校長先生、副校長先生や 40 名近い保護者のみなさまにご参加いただきました。

#### ～ 講演の要旨（抜粋）～

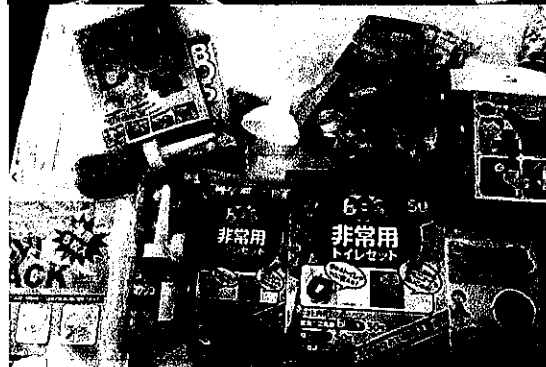
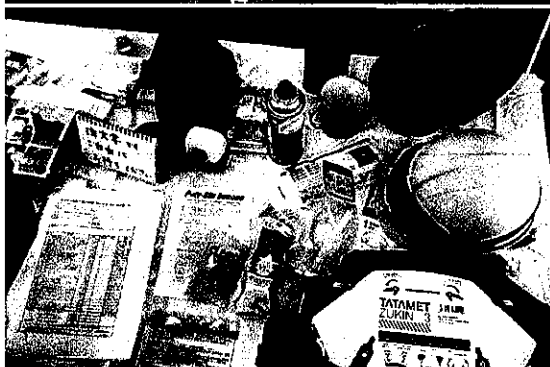
- ★地震対策で一番大事なことは、「自分の身は自分で守る」という意識をもつこと。行政機関は、発災後 3 日間は人命救助を優先しなければならないため、被災者の対応は早くても 3 日後となる。
- ★水の備蓄目安は 3ℓ×人数×想定日数、食料はお米 5 キロ、子どもが普段食べ慣れている備蓄品がよい。
- ★職場などで被災した場合は、群衆なだれを防ぐため火災と道路混雑が落ち着いてから帰宅する。
- ★震災後に一部屋でも雨風をしのぎ、外気を遮断する部屋を確保するためにガラスの飛散防止フィルムを貼る、物が散乱しないように不用品を整理しておく。（1 日スーパーの袋一つ分整理する）
- ★ケガをしても救急車は来ない、医療機関をすぐ受診できないので、止血や応急処置が自分でできるよう三角巾を用意しておくことよい。事前に上級救急講習を受けておくこともおすすめ。
- ★ATM が使用不能となったり、通帳等が探し出せなくなったりするので、ある程度の現金を用意しておく、被災地から脱出して一週間生活ができる。
- ★断水や下水管の破損等でトイレが使用できなくなるので携帯トイレ袋を用意し、尿と便を分けて処理する。ペットボトルで尿回収ロートを作ることできる。
- ★車の中に防災用品を備蓄しておく（水、パンの缶詰、LED ランタン、応急手当用品、防寒用毛布、簡易トイレ、トイレトーパー、45ℓビニール袋）車は一時避難に利用できる。
- ★近隣住民でお互いに助け合えるよう、自宅から 50m 以内に 3 人声を掛け合う人を見つけておく。

昨今、首都圏のみならず各地で地震が頻発しています。日本に住んでいる以上、地震災害は避けられないので、被害を最小限にとどめるための知識や知恵は、本当に目からウロコの情報ばかりでした。

医療機関、行政、避難所等に頼りきるのではなく自ら生き延びる知恵として、お米 水等の備蓄量の目安や保存方法、本当に必要な防災グッズの知識など、日頃からの備えの重要性を改めて痛感しました。

みなさま大変熱心に真剣に聞いてくださり講演時間があっという間に感じられたほどでした。

アンケートへの回答など、みなさまのご協力に感謝しております。ありがとうございました。



みなさま真剣にお話を聞き入っていらっしゃいました

防災グッズを実際に手に取り、すぐに揃えたい、といった声もあがっていました

～アンケートの中からいくつかご意見をご紹介します～

- 備蓄すべきものを見直し揃えていきたい
- 自己判断 自己認識が重要だと感じた
- 自分の家族を守るのは自分たちだと心に響いた
- 被災地や避難所の実態を知り行政の支援は期待できないと思った
- 家族で生き抜くために危機感をもち防災対策をしなければならないと感じた

以上